

深層水体験施設タラソピアの今後の方針について

1 深層水体験施設タラソピアの今後の方針について

- ・タラソピアの機能を令和6年3月31日をもって「廃止」する。
- ・廃止後の施設については、解体・改修の可能性や、海洋深層水の活用も含め、令和5年度以降検討する。
- ・検討にあたっては、サウンディング調査の実施、指定管理者であるWAVE滑川の意見も聴取し、公民連携手法の導入も含め検討する。

2 理由

深層水体験施設タラソピアは平成10年に整備し、築25年を経過しており、深層水の配管設備を中心に設備が老朽化し、近く施設の運用ができなくなる恐れがある。

タラソピアの建設には約10億円を要しており、今後も同様の規模で運営することを前提とした場合、機械設備の更新、ダイナミックゾーンの天井貼り換え、プールの防水工事、各種配管等の工事を施工する必要がある、当時の建設費と同程度の費用を要する可能性がある。

利用者は、平成12年度のピーク時には50,000人を超えていたが、その後減少傾向にあり、令和元年度で23,000人、令和2年度、3年度は新型コロナの影響もあり、約16,000人前後となっている。

運営経費に対する市の負担は、平成11年度から平成14年度までは約2,000～3,000万円であったが、利用者数の減少に伴い、平成15年度以降は5,000万円程度となっている。

令和4年度に実施した市民アンケートでは、「現在の状況を踏まえ、タラソピアの存続についてどのように考えますか」という問いに対しては、「存続すべき」が30%、「廃止すべき」が55%であった。「存続すべき」理由としては、「健康増進に効果的」「市が推している海洋深層水の活用施設である」などがあり、「廃止すべき」理由としては、「利用者が減少しておりコストに見合わない」「設備が老朽化しており、更新しても利用者の増加は見込めない」などであった。

「今後維持していく場合の財源確保の手段は」という問いに対して、「民間の資金の活用」が43%で最も多かった。

「今後廃止する場合、深層水の利活用手段は」という問いに対しては、「必要ない」31%、「全く違う施設を設置」30%、「規模を縮小した施設を設置」が25%であった。

また、タラソピアを存続させる会との懇談会では、「施設が使える間は存続を」「介護予防・健康維持の観点からも存続を」「やめるのであれば代替施設を」などの意見があった。

令和4年度に実施した「タラソピアの活用に係るサウンディング型市場調査」では、他の用途への転用の意見が多く、例えば「眠りをテーマとした施設」「介護予防施設、リハビリテーション施設」「道の駅全体での活用」「深層水を活用したサウナ施設」などの意見があった。

なお、滑川市議会からは平成27年に公共施設の在り方に関する提言書が提出されており、その中でタラソピアについては「廃止」との提言がされている。